

令和3年度 江別市立病院 決算概要と経営再建への取り組み

詳細 市立病院管理課財務係
☎ 382・5151

▼決算概要

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の「重点医療機関」として、陽性者の受け入れや発熱外来などの対応に努めました。

入院患者数は前年度を下回ったものの、さまざまな経営改善の取り組みにより診療単価が上昇しました。

また、外来では新型コロナウイルス感染症による受診控えが一定程度落ち着いたこともあり、患者数が前年度から9,633人増加しました。

これらの要因やコロナ関連補助金の増額により、病院事業収益全体では前年度から約10億1,000万円の増収となりました。

費用面では、医薬品の価格交渉により薬品費が大きく減少したものの、感染症対応に伴う手当や看護補助者などの会計年度任用職員、内科出張医の報酬などが増加しました。これらの要因により、病院

事業費用全体で前年度から約1億1,800万円の増加となりました。

▼経営再建への取り組み

市立病院の最重要課題である診療体制の整備については、医師招へいを担う顧問や経営推進監を中心に、医育大学（医学または歯学を教育する大学）を継続的に訪問し、関係強化を図った結果、夜間・休日における日当直の出張医師の応援回数を増やすことができ、救急患者の受け入れ増加や常勤医師の負担軽減につながりました。

また、経営再建を着実に進める体制構築を目的として、令和4年4月から「地方公営企業法全部適用」へ移行するために、事務職員の病院専属化の推進や職員研修計画の策定を行ったほか、病院経営の責任者である病院事業管理者を招へいし、管理体制の強化に取り組みしました。

令和3年度決算と前年度との比較

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増減
病院事業収益	67億6,100万円	57億5,100万円	10億1,000万円
病院事業費用	65億8,600万円	64億6,800万円	1億1,800万円
単年度純損益	1億7,500万円	△7億1,700万円	8億9,200万円

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増減
一般会計繰入金	15億1,400万円	15億9,200万円	△7,800万円
通常分	15億1,400万円	14億6,500万円	4,900万円
新型コロナ対策分	なし	1億2,700万円	皆減
一般会計長期借入金	なし	なし	-
累積欠損金	△117億3,300万円	△119億800万円	1億7,500万円
不良債務残高	4億5,900万円	8億8,700万円	△4億2,800万円
一般会計長期借入金残高	22億7,600万円	22億7,600万円	-

令和3年度の繰入金は新型コロナウイルス感染症対策分が皆減（かいげん）したことにより、前年度より7,800万円減少しています。

※一般会計繰入金通常分に、医師確保対策にかかる経営再建支援補助金として7,100万円が含まれています。

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増減
延患者数	入院 65,679人 (179.9人/日)	66,241人 (181.5人/日)	△562人 (△1.6人/日)
	外来 132,107人 (545.9人/日)	122,474人 (504.0人/日)	9,633人 (41.9人/日)
病床利用率	一般	67.9%	0.1ポイント
	精神	74.6%	△4.9ポイント
	全体	68.9%	△0.6ポイント

【病床利用率は休止病床を除いて計算しています】

※ 令和元年11月から一般病床237床（△41床）

※ 令和2年4月から一般病床224床（△13床）、精神病床37床（△12床）

さらに、「江別市立病院経営再建計画（ロードマップ2023）」に基づく、集中改革期間（令和2年度から令和4年度まで）の中間年として、地域の医療機関との連携強化を目的とした認知症疾患医療センターの設置に向けて、関係機関との協議を進めました。

そのほか、充実した医療を患者に提供することを目的に、薬剤指導や栄養指導などを丁寧に行ったことで、収益力の強化に繋がりました。

また、健診センターの利用者拡大、乳腺外科外来患者の獲得などを目指した各種プロジェクトを立ち上げるなど、病院全体で経営改善に取り組みました。

みましました。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症による病院経営への影響が続いている状況にありますが、市民および近隣住民の皆さんに安全・安心な医療を提供できるよう、職員一丸となって経営改善の取り組みを着実に進めてまいります。

江別市立病院経営評価委員会が 令和3年度 点検・評価に関する意見書を提出しました

〔詳細〕 市立病院経営改善担当 ☎ 382-5151

市では、市立病院の経営再建を着実に推進するため、外部委員により構成される「江別市立病院経営評価委員会」を設置し、経営再建の進捗状況について点検・評価を受けています。

8月17日(水)に、経営評価委員会から三好昇市長へ点検・評価に関する意見書が手渡されました。

意見書の詳細については市立病院ホームページをご覧ください。



▼ 経営再建の進捗状況に対する評価

個別項目の評価	① 市立病院が担うべき医療の重点化	C
	② 診療体制の確立	B
	③ 経営体制の構築	B
	④ 一般会計による公費負担の適正化及び財務基盤の強化	B
	⑤ 広報活動の充実	C
総合評価		B

※ 進捗状況の評価基準

[A] 予定以上、[B] 概ね予定通り、[C] 予定よりやや遅れ、[D] 予定よりかなり遅れ

市立病院 連載コラム 経営再建の軌跡

第3回 強みを活かした医療

市立病院では、診療所などの「かかりつけ医」との役割分担を進めるため、当院の強みである高度医療機器や多職種連携を活かした医療に特化する取り組みを進めています。

「MRI」や「RI」、「CT」などの大型高度医療機器については、地域の診療所からの検査依頼を積極的に受け入れるなど、医療資源の有効活用に取り組んでいるほか、市内に約60ある診療所と病院との協力関係を築くなかで、市立病院は強みを活かした医療に特化し、最適な医療を提供できる環境を整えています。

また、市立病院は通常の外来のほかに、入院病床や高度医療機器を有する総合病院の機能を活かし、「専門的な検査」「手術を伴う入院治療」「日中夜間の救急車受け入れ」なども行っています。

今後も、経営再建計画の達成に向け、引き続き改善への取り組みを進めてまいります。

【市立病院の強みを活かした医療の一例】

- MRI・RIを活用した、認知症改善への取り組みである「もの忘れ外来」



- CT・スパイロメーターを活用した、肺がんや呼吸器疾患の早期発見のための「高機能肺ドック」



- 骨密度測定装置を活用した、骨粗しょう症の診断や高齢者の定期的な経過観察
- マンモグラフィー、乳腺エコー、細胞診検査を活用した乳がんの精密検査